



# 成田支部は闘いに燃え



労農連帯にかけて  
生き生きと闘う成田支部

われわれは、いま全支部で不当処分粉碎・反動局長秋山追放の闘いを展開している。この闘いは、布施行委員の解雇をはじめとする二百八十九名への不当処分攻撃を粉碎する闘いを通して、国鉄当局・「本部」反動分子一体となった動労千葉破壊攻撃を粉碎しつくすまで、やむことのない闘いである。動労千葉の怒りに燃えた闘いは、刻一刻と国鉄当局・反動局長秋山とこれに泣訴して動労千葉への弾圧処分組織破壊を乞い願う「本部」反動分子を追いつめていく。われわれは、この国鉄当局・「本部」反動分子の連合した、うす汚い不当処分攻撃を弾劾し処分撤回・反動秋山局長追放まで長期強靱に闘い抜こう。

成田支部は、昨秋、一〇・二二〜一一・一の二波にわたる反合・ジェット増送ストを打ち抜いた自信と団結力をもって六月二日からの三日間減産B闘争を成田、我孫子、常磐線で果敢に闘い抜いた。職場の高揚は、「本部」反動分子を一歩たりとも職場によせつけず、闘いに追いつめられ感情的で独善的に挑発弾圧策動を指示する反動局長秋山の迷惑をもの見事にはねとばし、「成田の天狗」よろしくスローガン闘争など余裕をもって生き生きと闘い抜いている。

六月九日には、三十八名の役員・活動家を結集して支部活動者会議を開催し、減産闘争の総括と各職場の組織点検を行い、非協力闘争の進め方を討論した。

そして、こんかいの選別の不当処分と減産・非協力闘争への異常なまでの当局の弾圧姿勢は、三十五万人体制攻撃下での国鉄労働運動の解体を目論むものであり、したがって、われわれのいま闘っている反処分闘争は、三十五万人体制粉碎の先制的闘いであること。しかもこの闘いは「動力車労組」という仮面をかぶって労働者をたぶらかしその実三十五万人体制の尖兵となつて、当局と連合して闘う労働者II労組を圧殺せんとする「本部」反動分子という希代の反動との八〇年代国鉄労働運動の生死をかけた闘いであることを確認した。

## 成田



38名をかちとられた支部活動者会議

成田支部組合員の闘いへの決意は、組合員Aさん(37才・機関士)のつぎの言葉に代表されている。

「処分に対する怒りは言葉では、言い尽せない。忘れてならないことは、『四・一五』は『本部』反動分子がスト破りに押しかけ、粉碎されるや『当局に処分を泣訴した』ことだ。そして昨年われわれの闘いに『三里塚スト反対』と敵対したことだ。労農連帯にかけて絶対粉碎してやる。」

### 衆議院議員推せん候補



(二区) 木原



(二区) 小川



(三区) 辻田



(四区) 新村

# 日新動労千葉

80.6.12  
NO. 454

国鉄千葉動力車労働組合

千葉市要町二一八(動力車会館)  
電話二二五八一九(公衆電話)二七二〇七